

死者略傳第拾卷材料

0700

鹿島縣早原郡山田村

鹿島縣士族

故海軍一等兵勇勲八等金章其子

要政元年四月五日

戰死五年、年齡四十年

二海軍後、經歷大要助於二十七年七月十日

海軍少將等、奉詔渡國、海軍少將島

又薩州、於、清國、激戰、又花園、

於、第二軍、上陸、合、其、他、大、建、功、

族、順、に、在、領、に、初、に、始、終、を、野、に、於、て、歴、

戦、し、て、後、廿八年一月十日、海軍少將、

勲章、に、命、せ、り、と、稱、す、長、に、海、軍、少、將、

0701

東大攻撃、在り敵、砲台一部已、吾
 手、陥り白島砲台劉公島砲台攻撃、際
 彈丸雨飛ノ下、主午掛針長ノ機、在り、我
 巨降劉公島ノ砲台ヲ飛ヒ、在り、左木函脚
 及足部ヲ貫通シ、若ク、肉身四散、遂、今所
 へ、於リ、廿八年二月、一、年、怪一、時、四十、全、致命、ス
 乙九年、乙、丁、未、ノ、年、廣島縣、廣島市、石井、要
 人、執、手、四、谷、五、怪、及、和、降、歴、史、ヲ、学、ヒ、後、午
 郵、街、ニ、在、リ、村、上、和、藏、ノ、門、ノ、入、リ、ハ、夜、初、初
 終、ハ、月、録、免、狀、ヲ、受、ク、丈、人、ト、者、リ、剛、建、雅、大
 ノ、氣、象、ヲ、備、ハ、悪、ク、見、レ、ハ、怒、髪、冠、ヲ、衝、キ
 憤、激、ス、賢、世、類、ハ、温、厚、ノ、氣、ヲ、養、フ、事、ヲ、シ、テ、

金魚

之所
性也
常
靜
知
上
好
之
軍

廣興島黃海

角ノ所ニ大建寺あり

傳多解
下
車前
羅仕
知悉
几
十五

司馬遷、駢來少人叩也。乙辰無負ノ寒。

升一而身不覺殊健全之藏

黃門教序其前序其後下之何一近之

欣風吹來天石擊，搖子、自寸時三

國家、其力アリし限り奮戦し一撃

漢國艦隊之移轉と日清度凱旋近

力キ、ア、リ、シ、カ、去、陣、人、出、師、ニ、シ、ハ、生、死、ノ、程、人、
難、如、ク、存、戦、死、シ、テ、吾、力、素、心、ノ、一、方、分、一、
尽、之、ヘ、キ、決、心、ト、所、所、共、同、後、今、如、度、戦、
ニ、戦、死、シ、テ、敵、軍、ヤ、ス、ト、モ、決、シ、テ、佛、心、配、座、
之、シ、テ、逆、守、中、妻、子、ノ、和、可、能、所、令、力、耐、死、
下、度、以、下、略、ス

五
ナ、リ

六
口、墓、妻、夫、ノ、如、シ

廣島縣士族

瑞輝一等兵衛 勲八等金子典正 次郎之墓
明治八年二月三日 於清國威海衛 戦死

七
ナ、リ

0705

八 賢達多とアルにアツキムを計上固執ナレ
九 蓬族ハ妻ヲ五名ニシテ一家睦シクシテ子
供三人ハ其ハ小學校ニ入り教育ヲ受テマス

0706

第。十。卷。 能。業。二。

廣島縣高宮郡三川村字東野

廣島縣千代

改元二年水兵令 廣田五郎

文久二年五月廿日

一戰死者時、年、廣田三十一、年、廿、月

二、延、平、後、應、歷、大、正、八、年、二、月、二、日、成

悔、東、に、於、て、戦、死、叙、勳、贈、位、ナ、シ

三、學、問、に、幼、時、寺、小、屋、に、於、て、習、字、の、學、を、專、力、通

仕、得、文、の、讀、み、解、し、行、方、正、を、精、進、固、風

秉、美、ナ、リ

四、戦、地、を、巡、り、し、文、田、左、記、主、項、ノ、通

五、ナ、シ

0707

云ナレ

セナレ

ハ豊后ノミナトニ中尋ノ世ナリトス
凡運族ニ七名ニシテ皇母ニ扶助料ノ受ケテアリ

文書ノ事

本力ニテ乃以國差年送旅順ニ大領ノ陸軍ニ共
我カ方ニ遊軍ヲ築キ大島島海
四艦ニ二十一年前一時ニ大連湾ニ飛地ノ出艦
致シ大連湾ヨリ旅順ニ至ル程ニ二十七年
ニシテカノ連カリシニ時ニ至リ夜ノ明ケス
ニ時開カシテ敵ノ砲台充ルニ至リ棄て故ニ

0708

當時は待て、マカ敵、砲台カト断、見止せし
我、我艦、先導船、艦長、一命、
敵、砲台、向て、砲台セ、トノ、號音、ア、我
艦、砲台、一、奏、マ、カ、カ、打、マ、ト、弾、火、敵
ノ、砲台、射、心、地、マ、破、到、致、し、敵、兵、一、奏
ノ、砲聲、一、驚、マ、一時、砲、マ、橋、へ、我、艦、隊、マ、
撃、マ、打出、其、弾、火、一、ホ、所、散、マ、来、り、マ、
マ、や、四、砲、我、艦、ノ、一、内、に、マ、一、奏、
一時、一、砲、マ、又、事、マ、ア、マ、マ、マ、
東京、兵、一、二、万、余、ノ、陸、軍、一、様、兵、マ、
二、マ、一、大、戦、年、二、所、マ、海、軍、三、方、マ、
大、改、修、マ、一、支、那、兵、一、店、日、本、兵、一、カ、ナ、ハ

0709

今昔ト見、一時半頃ヨリ敗走致ス、江ノ口
 本軍、勢ヒ益々烈シク相成午後五時全ク
 陥ル陸軍一大砲之ヲ七門、各要所海軍ハ
 市設、火雷、全部ヲ切リ、軍供一ナリ在
 領セリ、宣、無衣、ノ不捕、畏、大、物、
 シ、金、五、何十億、一、今、教、敵、
 死傷、千人、人、我、軍、大、傷、二、百、計、
 失、二、百、取、陸、軍、大、勝、力、深、ヤ、帝、王、
 萬、歳、ヲ、祝、シ、市、通、志、本、上、笑、
 明治三十七年五月二十日
 徳五郎

今半見様

0710

傳記材料調

(一) 平氏農業拾本平次安政五年六月十日生
戰死年月、年、齡三十六年九月

(二) 從軍后之復一、整

明治廿七年十二月一、等水兵、余、セ、ル

、廿八年二月三日、清國威海衛、攻、撃、

、際、戰、死、

(三) 言行、志、操、氣、質、風、采、其、通、常、其、他、

不詳

(四) 十、

(五) 十、

(六) 十、

(七) 十、

0711

其家中尋以下生活
遺族者七名ニシテ平素農業ヲ專業ト
シ餘暇何レモ日雇稼ヲナシ生活ノ補助
ヲナセリ

0712

第十卷 葛城

葛城

一 平民海軍二等水兵河村伊三郎明治元年四月生廿六年七月
二 明治廿七年七月廿三日朝鮮國へ回航自來所々轉戦スル前後土面
最後明治廿七年二月青威海嶺激戦際敵彈ニ當リ戦死ス當時
氏ハ葛城艦ニ在リテ該艦追撃砲手ヲ追撃砲ハ該艦主力ヲ武
器ニテ特ニ敏捷者ヲ採ミテ之ニ當ラサシ氏其撰ニ當リ該砲四
番員ヲ務ム其此砲ハ配置セラルヤ氏欣喜限リナク固テハ常ニ
其砲具ヲ教正シ宛然小兒^{玩具}ヲ樂カシム其操砲ハ技ニ達スルヲ
知ルニ足ル而シテ此日彈丸兩射間ニ在リテ拳動頗ル治泰勇氣日
ニ培エ追撃砲ハ該艦唯一巨砲タルニ係ラズ其砲ヨリ發射スル彈
丸ハ敵該艦中第一便ス氏ハ最モ在リト云フ而シテ此戦ニルヤ敵

0713

艦隊ヨリ發射スル砲彈概テ正雄ニテ我艦隊ヲ損害ヲ被ル
ナカラズ而シテ該艦ヲ追撃シ砲ヲ撃タルヤ氏ハ分隊長栗田大尉
ト恰モ砲側ニアリキ憐ムベシ氏ハ其最モ愛玩スル所ノ大砲ト共
ニ殲ル實ニ奇ト云フベシ氏亦常ニ撰ビテ從卒、長トナルヤ能ク他
ノ從卒ヲ指揮シテ諸事ハ私正領スルニ至リ其勞ヲ厭ハズ故ニ
トシテ勉勵ノ至ラサルヲ之レ憂フ故ニ其殲ルハヤ將校下士ニ
禁ゲテ惜マザルモノナレト

三氏ハ八歳時山縣厚成郡万倉村宮尾ノ學校ニ入学十歳時
同校ヲ卒業シ(今高等學校学科程度同等並)自來志ヲ
地才進識ニ就キ學ヲ修ムト其修學ノ程度推シ知ルニ足ル

0714

言語活潑去操確実ニシ風ニ武ヲ好ム明治廿年十月廿日
大書ヲ横須賀ニ寄リ書スル氣質沈毅博學ト人ニ交ハル温
和散漫戰友ノ深ク感賞スル所ヲ風采氏ニ勝レト人ノ追慕ス
ル所ナリ

四 記載ノ事項ナシ

五 全ト

六 墓誌銘及ヒ墓表ハ別紙背面ニ通り

七 記載ノ事項ナシ

八 田畑吉所歩餘尚他ニ相当ノ財産ヲ所ナシ家計極メテ裕
カナリ

0715

11

二
氏
八
寸

建忠院釋義山勇照大居士

七寸五分

寸	五	尺	一
---	---	---	---

十

廿一 尺 二

寸

三 天 寸

七

臣

12

仁國

天

六

石
少

<http://www.jacar.go.jp/>

中野信陽傳記

一 戰死者佐賀縣士族正七位勲六等中野信陽ハ安政二年十二月二十八日肥前國佐賀片田江ニ於テ先幼名ヲ熊三郎ト称ス戰死當時ノ年齡ハ三十九年三月十リ

一日清戦争ノ起ルヤ信陽ハ金剛砲術長ヲ以テ明治二十七年八月横須賀軍港ヨリ假根據地ニ面航シ後チ天龍副艦長ニ補セラレ而シテ清國威海衛劉公島攻撃ノ際天龍ハ第三旋撃隊ノ先導指揮艦トナリ其東岸砲臺攻撃ノ時ニ方リ信陽ハ該艦橋右舷司令塔上ニ在リテ縱横砲火ヲ指揮ノ際遂ニ敵巨弾ニ中リ僅ニ其隻脚ヲ艦橋ニ遺シ身体ノ全部ハ海中ニ墜落シ明治二十八年二月十日戰死ス

信陽ハ明治十三年三月十日正八位ニ同十六年十二月二十音
從七位ニ同二十三年十一月一日正七位ニ敘セラル同三十五年
五月二十八日勲六等ニ敘セラレ瑞寶章ヲ賜ハル

一
信陽ハ明治四年藩費學生ニ撰拔セラレ東京近藤
真琴ノ塾ニ入り翌五年二月海軍砲術生徒ヲ命セラ
レ教師ブリンクレー氏ニ就キ滿五年間海軍兵學ヲ脩
メ同十四年海軍學術大試験ニ及第シ後大學校
定期課程履行ノ第二等証書並ニ砲術長タル資
格ヲ具フル第一等卒業証書及砲術長假適任証
書ヲ受領ス

一
信陽性ハ溫厚著實深沈寡言ニシテ忠君愛國ノ
志氣ニ富ミ常ニ人ト爭ハス人ト交ル最モ信義ヲ重ス
信陽戦地ヨリ書壽賀子ニ寄送セシ信書アリ左ニ之ヲ載ス

寒氣甚敷候處愈御無事目出度存候陳ハ
此頃ハ陸兵掩護ニ付尤多忙罷在末夕一度モ敵艦
ニ出逢不申遺憾ニ不堪候不日海陸總掛リニテ
砲撃ノ由花々敷決戦ヲト相樂罷在候防
寒ノ為服靴ニ至ル迄厚キ御心尽シノ品々御送被下
即刻ヨリ著用致居實ニ御親切ノ段幾重ニモ
忝存候知明ハ毎日幼稚園ハ参リ居夜々物語ニ
海軍士官ニ成リ度トノ事ハ愛ラシク未頼母敷
國家ノ爲悦ヒニ不堪教育ハ幼少ノ時ニ在リ確ト
御注意被下度候差急キ勿々可祝

一月二十日

信陽

於壽賀とあり

一 信陽ノ養父ハ次郎助ト称シ佐賀藩士中野益明ノ
三男ニシテ戊辰ノ役官軍ニ從ヒ衆ニ挺テ勇奮健
闘シ明治元年六月二十五日上野國今市ニ於テ戦死ス
藩主其戦功ヲ追賞シテ爲メニ一家ヲ興復セラル
一 信陽ノ家ハ素ヨリ生ヲ計ル産ヲ有ス其養嗣子ヲ教育
スルノ道ニ於テ敢テ闕クル所ナシ

一 信陽ノ遺族ハ即チ寡婦壽賀子及養嗣子トリ養嗣
子ハ現任神奈川縣知事 中野健明ノ二男ニシテ知明ト称ス
明治三十年一月原籍ヲ神奈川縣ニ移シ目下健明ノ家
ニ同居ス壽賀子ハ貞淑渝ハラス専ラ故信陽ノ靈ニ
事ハ一ハ養嗣子知明ノ教育ヲ以テ己ノ任トナシ之ヲシテ先考
ノ跡ヲ継キ海軍ニ出身セシムルヲ以テ心トス

第十卷

天龍

廣島市宇觀音村百五番次五番卯

士族繁藏身

海軍軍醫中村若吉

明治元年七月自生

一戰死廣島年多齡三十三年八月

二明治元年七月三日清軍事件朝鮮國向

七伍五保艦之乘組出死又

今年五月五日開戰五役二役事又

今年十月五日叙勳八等賜瑞寶章

今年五月十八日給一等日給

今年三月十日劉公島砲臺砲擊降戰死

0721

明治六年ヲ父母許ニ在リ教養良ク度ケ傍テ私塾ニ
通學シテ讀書作文算術ヲ學ビ日用ヲ辨
ズル

言行

言方ヲ行ヒ正シ

志操

海軍志ヲ年齡ニモオミテ水兵ノ勇

集ニ應ス

氣質

溫順

風采

愷悌

四ナシ

五ナシ

六ナシ

七ナシ

0722

八 其家貧富程度

土地の自給
一家の自給

故老云、屋敷婦二男児ヲ有ス之ヲ持テ別居ニ
常ニ僅カニ裁進ヲ蒙ルモ其ノ権利ヲ得易
恩賜ニ係ル金及特別賜金ノ收得ニ殆ビ可
経済ヲ為シ居リ

九 園族、有業及情況

故老云、園族ハ其戸主タル兄數家藏以下九人
アリ内之ハ一若古、屋敷婦一男児ニシテ其他數
藏ノ妻子ナリ註算婦一男児ト繁藏方ト全
戸籍ナク其ノ互ニ別居シ各経済ヲ営ミル

0723



第五卷

廣島 天龍ノ

十月一日

廣島縣神調郡三原町字三原四百九番邸

政海澤 三平氏 娘 島田 龜吉

明治六年十月十一日生

一戰死者當年、年令二十一年五月

二明治十七年七月廿三日日清事件、付朝鮮近海、向
々佐世保出港

今年七月二十日清國戰之役ニ従事ス

今年八月二十日威海衛劉公島砲兵砲撃之際
十分散、砲彈中リ戦死ス

三就學、年令學術程度等不詳

言行端嚴、志操堅固、氣質正直、風采溫

廣島縣

0725

厚實實に暗々凛烈トシテ敵慨ニ富カ風ヲ

四戰地より郵送シタル文眉類ニ詩歌又之ニ伴フ

五遺稿著書ナシ

六正面釋 超然即證居士

左側面三等水兵島田龜吉

左側面明治三十八年二月十日戰死

後以明治三十八年十二月一日吳海兵團入管今日五

等水兵拝命今日廿七年一月廿三日館山艦乗組員

被命今年三月師結僧廿五年師祝興ニ府酒肴料

師下賜今年六月六日天龍艦轉乘被命今年六

月十六日四等水兵拝命今日廿三日日清事件府朝

鮮近海ニ向テ佐々保佐港今年七月廿五日清國
戦々役ニ従事ス全年三月十日三時水兵拝命全亡
八年二月十日清國威海衛東口砲台砲撃之際戦
死

也始祖以来又勲武功ナシ

八家計富キ非スト重キ労働シ以テ家棲息シ居
レリ

凡 趙族凡名アリ其情况ニ至リテ何レモ労働シ以テ家
計ヲ立持シ居リ

0727

第十卷 天龍 8

(一) 兵庫縣加古川市賀村内下草谷村茅葺屋敷

故海軍重砲兵 井澤鶴松

慶應義塾育大自筆

履歷

(二) 明治二十一年三月廿二日 東京市本町三丁目 即日富士野赤組ヲ命

セラル

ハ十九年十月廿日 浦賀止留ヲ比叡艦、來組

ハ廿年正月十五日 東京市本町三丁目 即日富士野赤組ヲ命

ハ廿年正月廿日 東京市本町三丁目 即日富士野赤組ヲ命

ハ廿年正月廿五日 東京市本町三丁目 即日富士野赤組ヲ命

ハ廿年正月廿七日 東京市本町三丁目 即日富士野赤組ヲ命

明治二十一年

0729

廿三年正月廿二日 卯朝

廿三年正月廿二日 制親外ノ着取ヲシテ科禁定ムルニ付

廿三年正月廿二日 鄭孝水兵ヲ命セラル

廿三年正月廿二日 日海系艦士身負航力

廿四年一月廿六日 土身負皇帝ヲ救難章ヲ賜 佩田亮

許也

廿五年正月廿二日 壬午年再長

廿五年正月廿二日 病院ノ入ル

廿五年正月廿二日 日送籍

廿五年正月廿二日 建院

廿五年正月廿二日 金剛座組

廿四年正月廿二日 徳洲ノ航カ

力十 君 名 戸

0730

廿五年四月十日酉朝

廿五年四月七日酉朝 章線授與せらる

廿五年九月廿五日酉朝 米國へ配り

廿五年四月廿五日酉朝

廿五年九月九日公務上負傷、重入院

廿五年横濱實海軍病院の院

十月六日退院

廿七年四月九日軍艦吉野乗組り乗せらる

廿七年九月廿五日係員、病院の院首に送替

七月十日輕快ヲ以テ退院、今日係員海軍團へ入團

七月廿日軍艦吉野乗組り乗せらる

廿七年三月廿日清國事件、朝鮮出陣、向ケ、北朝鮮出陣ス

明治三十二年

0731

七月廿二日 開戦

青島 一撃 水兵 5 人 死 亡

明治廿八年正月 青島 土庫 10 万 諸 國 威 海 衛 神 三 於 子 劉 公
島 東 砲 臺 砲 擊 際 敵 彈 上 甲 板 破 裂 砲 臺 片 落
二 砲 幹 断 裂 砲 臺 死 亡

明治廿九年 正月 三 日 國 威 海 衛 砲 臺 砲 擊 際 砲 臺 下 賜 せ る

八月 十八 日 從 軍 記 章 下 賜

八月 廿 四 日 金 百 圓 山 崎 公 賜 与 せ る

明治廿九年 頃 予 五 十 五 年 頃 止 尋 常 小 學 科 程 度 ヲ 終 了 し
易 方 正 書 據 著 英 艦 隊 氣 質 勇 壯 性 格 頑 強 三 十 五 年 耐
力 三 倍 三 倍 三 倍 使 用 守 り 薄 弱 外 風 了

(三)

0732

(四)

戦地より返りし書翰ナシ

(五)

遺稿著書類ナシ

(六)

墓表ハ左ノ如シ

明治廿年有省志者建之

表海軍一等水兵并譯 鶴松君墓

左

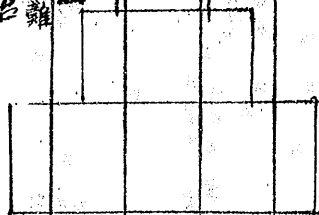
君志行正入海軍兵致々股務熟達技藝

果進一等水兵并贈 航子嘉港市時人追慕難

者故于土耳其同室南特賜板報章明治

二十二年十月天龍艦殉國勲公易改葬

之際勇毅而歿此言多天北條直江謹撰



田中不文

0733

(七) (八) (九)

其始相与父老直武切又勤又其也名彦ニ對ニ顕著ナル切續ハヤシ

カニ君若月

極貧ニシテ漸ク糊ヲ食フ

貴族ニ在リ通リ

父權以郎

又改ハテ四月五日

母はる

又改ハテ二月五日

0734

第十卷

天龍 9

一戰死者、族籍職業姓名並生年月戰死當年、年齢

山縣平民典辰(故海軍三等水兵)河 河 藏

明治八年七月生
明治十九年七月

一役軍後、復歴大要戰死場所叙勲贈位

明治三十八年十二月海軍志願兵トシテ兵鎮守府海兵團、入團

五等水兵トナル

明治三十八年六月廿九日軍艦天龍へ乗組ヲ余セラル

同年六月廿六日四等水兵トナル

同年三月十日三等水兵トナル

同年一月三日清國威海衛鹿角嘴砲台派遣中港

0735

一 内敵艦ト砲戦、落戦死ス 叙勲贈位ナシ

一 就學、年齢學術程度言語志操氣質風采

就學年齢六歳學術程度小學高等全科卒業言語

流暢ニテ明晰志操一意専心ニテ不撓不屈氣質活潑

ニテ敏捷高尚ノ風アリ

一 戦地ヨリ父母及友人ニ贈リテ文書類詩歌等國家ニ関

係アルモノナシ

一 遺稿著書ナシ

一 墓表別紙ニ如シ（戒名知進院釋揚義速樂居士）

一 其始祖ヨリ父ニ至ル途ニ間ニ武功文勲及他業ヲ以テ國家顯

0736

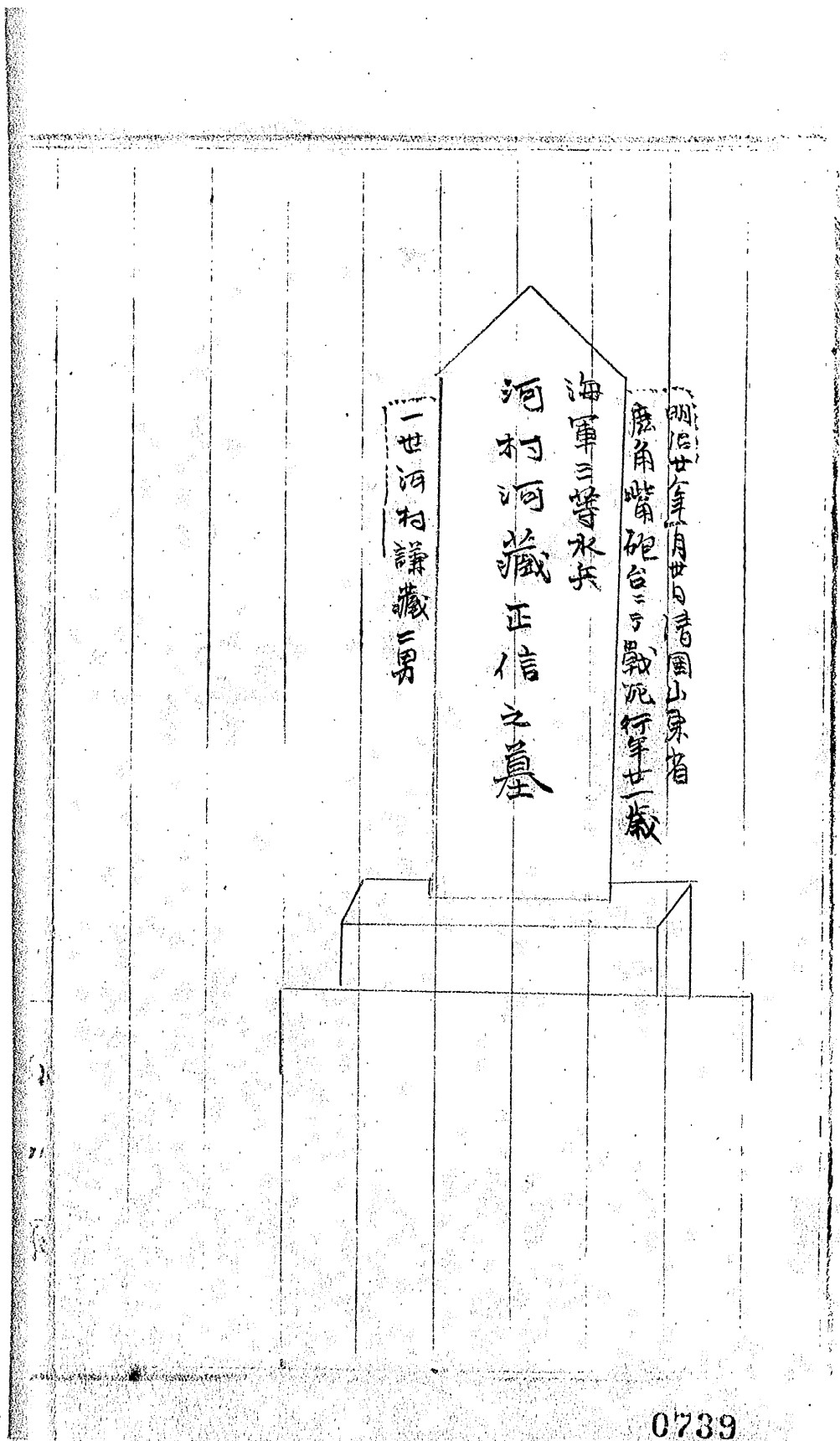
著書ナシ

一其家貧富、程度中等

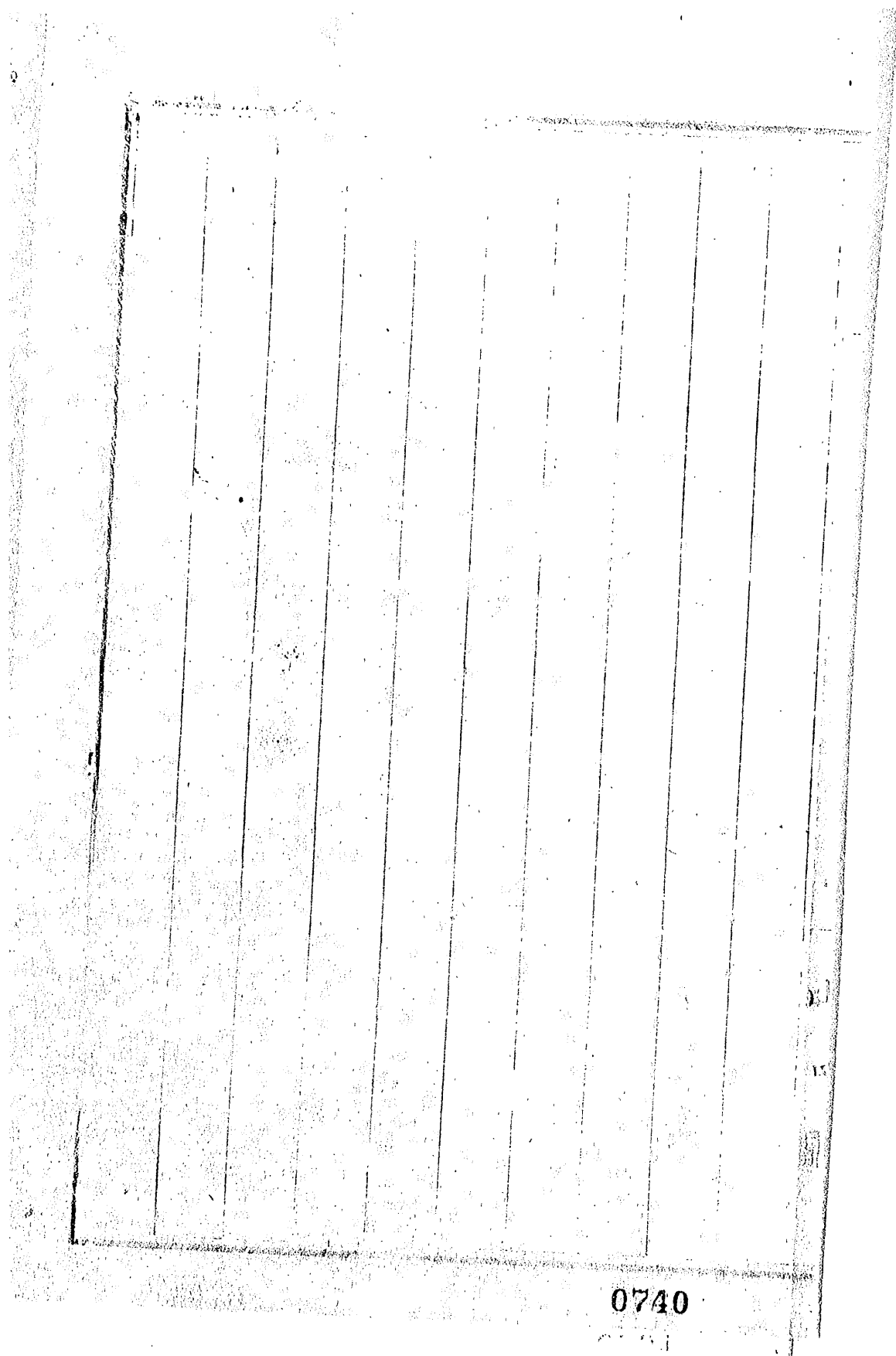
一遺族アリ、情況一家ノ和合也、
龜鑑トナスベリ、國家ノ爲メ、
軍人トナリ、戦死スル、期シタルモノ、
如リ、少シモ、遺憾トスル、情況ナシ
殊ニ戦死者、爲メ、恩給特別、
賜金ヲ受、感激、益々家業
ヲ勉勵セリ

0737

<http://www.jacar.go.jp/>



0739



0740

十一月廿九日

一 岡山縣児島郡下加茂村大字宇藤木六十五番邸

平民舟乘業

海軍三才水兵

大野和助

明治六年二月二日生

明治三十九年二月十一日戦死當時廿二年一月

二 明治二十六年十二月一日呉鎮守府海兵團入営五等

水兵ヲ命ス

全二十七年一月二十三日爲傳習館山乗組ヲ命ス

全年六月六日天龍ノ轉乘

全年全月廿六日四等水兵ヲ命ス

全年十二月十一日三等水兵ヲ命ス

全廿八年二月十一日清国威海衛港口劉公島東角砲臺

攻撃之際敵彈に中りて没す

叙勲贈位ナシ

三年齡八歳、一月ヨリニテ年間就学小學校下等學課

ヲ修ム眞性質素著實方正ニシテ言行温良ナリ
父母に孝ニシテ友人に最モ信ヲ盡ス

四 拝啟時の秋氣に候に御座美知御尊家皆々様愈々
御勇健ニテ御旅に由達に奉大賀美降而愚生
無恙日々軍務罷在候間乍他事御休意被下
度美扱テ私儀戰場様子に九月十七日清国ト大戦
致美知賓に我々海軍大勝利ヲ得美間乍失敬御
喜に御安心被下度美依テ種々コソク數キ事々新
聞ヲ御見物被下度候ハハ如斯に御座美尚私儀
帰國ノ節ハ戰場様子コソク數テ話シ聞テ積ミ我々

何分帰國、御待被下度矣

二伸に申上り、姉上様方當年兒子修一郎ヲモラケ
成サレ候趣、實に欣喜、至り、存矣尚兩三人共御
無事ノ御事ト喜に居り矣、依テ姉上様方、此事
申し山々宜敷御傳言被下度矣

尚我カ軍艦中、置テ如斯戰場中ナレハ靴ヲは
く事おナラズ美故コンタビ三足イト及「カル」少ハ
カリ御送り被下度ヒトエ、願上候

依而私方、金五匁因送、都合、致居候何分前書
ノ品物早ク御送り被下度矣

先、親类様方、山々宜敷御傳言被下度矣也

大日本軍艦天竜ニテ

十月二十日

大野和助様

同 山 係

0743

大野彌四郎様

五 遺稿著書ナシ

六 祖先、武功文勲ナシ

七 墓表故海軍三等水兵大野和助重勝之墓

右 義海院勇清日輝居士

左 明治三十八年二月十日劉公島砲撃に際中敵彈襲

於大龍艦甲板ノ上

八 無資産ニシテ村内ノ一等ヨリ二十等ニ級別セシ其

十八等ニ位ス

九 父母兄ノ三人アリシモ兄ニ明治三十九年九月病死シ

父母ノ老衰ニシテ一定ノ職業ナリ僅ニ細煙ノ日ヲ

送ル

十月廿一日

神奈川縣三浦郡橫須賀所詠訪十番地寄留

本籍鹿見島縣長川郡東太良村三戸田士族

故海軍上等兵曹勳七等

西田新五郎

嘉永三年五月七日生

四十四年十月月三戰死

一後軍、履歷大要戰死ノ場所

明治七年七月三十日軍艦盤城、東伯朝鮮及支那沿岸

一向々佐世保軍港出發ス

日年九月十六日大同江、於テ陸軍ニ應援ス

日年十月二十七日鴨綠口附近、於テ陸軍ニ應援ス

明治三十八年一月廿日盤城灣ヲ砲撃ス

日年一月廿六日海軍陸戰隊負テ命ヲシ威海衛東岸鹿角

神奈川縣

0745

北角砲臺ニ於テ砲撃ニ從事ス

同年二月三日威海衛東岸鹿角北角砲臺ニ番砲砲台士
官ノ職務ヲ命ゼラレ砲撃中戦死ス

一就学ノ年齢 九歳

一學術ノ程度 高等小学卒業ノ程度

一品行正良 志操確實 氣質剛毅 風采朴訥

一四乃至七ノ事項 記スキキ事案ナシ

一貧富ノ程度 中等

一遺族ノ状況 妻、妹、養子、各一人ニシテ質素ノ生計ヲ

営ム

以上

0746

言行

志操

氣度

風采

四穀地を贈りし文書に類

五遺稿著書等

六苗衣表

七始祖より父に至る武功文

モノ

八其家貧富の程度

九遺族の血縁関係

平素の言行に一致する

少年より愛国主義の志を操り

治深

稍高き一見自ら沈黙の家あり

兄弟の贈りし書面別紙に如く其他文書類を之

無之

別紙より如し

七始祖より其他の事書きたるに因家之類々ある

無之

敢て因縁を云ふべし又富の程度

八其家貧富の程度(西村常之助(西村梅屋)の和歌山縣有手奉職一家の金計を云ふ前に西村梅屋の助産婦にテ孤児故に

孤児を教育シカノ傍に父兄の人物ノ中物ノ中同様にテ孤児人思給は依り賜ひ所ノ扶助を依り生活ヲナス現時ウニ市

東長町上丁目ニ在る地ニ在リ

兄弟贈りし書面

時下酷寒に候。はなはた父は玉許兄弟上様念心の清
福にふえ平飲賀哉。降し小生を我山山徒以來を思ひ
軍務に在りしは。軍令に依りて候。却て是を月廿
一日。本艦より下士三名兵卒六名陸軍隊に撥けし
内。小生より加り小生を我海軍に。降し。既。十九ヶ年
間。砲術等傳授し。又。ケ。降し。熟心。即。今日。顯。し
自分。急。心。如。満。足。不。堪。就。今。度。又。あ。る。為。メ。
え。お。大。奮。闘。心。に。以。て。大。攻。略。を。為。す。決。心。に。た。り。に。戦。死
は。い。降。攻。次。に。教。育。し。給。ひ。依。形。に。上。り。目。上。り。年。人。
降。し。ま。き。ス。ル。様。生。助。に。歎。け。被。下。度。候。先。に。戦。地
事。に。付。簡。單。に。は。依。形。に。方。に。報。じ。如。斯。に。は。た。父
公。頃。同。

明治二十八年一月二十三日

弟樟之助様

殿上様

一二件、美事、高女、件本、艦、皇祖、加古田、徳之助、君、依、我、
買、有、之、其、中、法、以、候

三、仲、上、陸、本、月、二、十、六、日、ノ、夕、方、ナリ

0750

墓表文



0751

岡山縣平民商

水島捨五郎

慶應三年一月十三日生

戦死當年、年齡二十八歳三月

二明治二十七年七月廿一日横須賀拔錨、全月廿三日正午神戸

港、着々日午後佐古保に向テ拔錨、全月二十七日佐世保拔錨

戦地に向テ

威海衛鹿角嘴砲臺、於テ敵艦砲撃、際敵、彈丸

砲身ヲ折斷シ、該断片ヨリ頭蓋ヲ碎キ、腦脱出シテ医

療ヲ待タズ即死ス

叙勲贈位ナシ

三就學、年齡ハ七年ハテ月學術ノ程度、小学下等第三級

修業ニ素寡言ニシテ輕挙、振舞ナク温順ニシテ事

0752

臨テ果サレハ止マサルノ志氣アリ

四 戦地ヨリ父兄ニ贈リシ書翰、文左ノ如シ

酷寒ニ節益々脚壯榮ニ、小生義無事消光羅五其
間御休神被降度却説帝國陸海軍が進撃ノ摸
様ニ兼テ新聞紙上ニ御承知ノト存美得共我海軍
聯合艦隊ハ十一月九日大連湾ヲ占領シ廿二日旅順ヲ
占領シ今ヤ清國盛京省ニ我占領地ニシテ旅順口ニ
ハ和港事アリ造船所アリ艦艇ノ修復自在ナリ只敵
艦ノ威海衛ニ縮退シ出テ戦ハサルノ故ヲ以テ遺憾
トナス、ミ若シ敵艦ニシテ今一戦シテハ正ニ北洋艦隊
ヲ塵碎シ海戦ノ終リヲ告グベキ、夫ノミ日ニ待テ居
候何シ愉快ナル哉知テ新聞紙上ニ見ルハ先ニ御伺
ヒ迄如斯候也早々

十二月二十一日

捨五郎

父上様

阿兄様

五
ナシ

六 墓表ナシ墓誌銘芳富院忠節義楠居士

七
ナシ

八 素ト洗フが如キ赤貧者ナリしが捨五郎戦死ニ付キ一

時賜金并扶助料御下賜相成候ニ付生計上稿々

困難ヲ感セサルニ至ル

九

遺族

(父兄弟兄妻)

アリ目下小作ヲナシ

農業ヲ営メリ

0754

